

慢性リンパ性白血病経過観察中に自己免疫性溶血性貧血を合併した一例

◎足立 恵里奈¹⁾、堀川 佐和子¹⁾、中村 絹江¹⁾、山田 華恋¹⁾
 社会医療法人 宏潤会 大同病院¹⁾

【はじめに】慢性リンパ性白血病(CLL)とは小型でほぼ円形の核を持つ成熟 B リンパ球が単クローン性に増殖し、末梢血や骨髄などに浸潤する疾患である。また CLL は自己免疫性溶血性貧血(AIHA)を合併すると高度な貧血となることが知られており、今回 CLL から 3 年後に AIHA を合併した症例を経験したので報告する。

【症例】80 歳代男性。糖尿病を約 X-20 年から患っており、X-3 年 10 月に 2 系統の血球減少のため当院に紹介され骨髄検査実施により CLL/SLL と診断。治療基準を満たさなかったため経過観察となった。X 年 3 月下旬に動機、労作性呼吸困難感を自覚し、X 年 3 月末に眩暈により立ち上がれなかったため ER を受診。検査結果より高度な貧血を認めたため上部消化管内視鏡を実施したが出血は見当たらず、精査加療目的にて緊急入院となった。

【検査所見】入院 2 日目の採血結果を下記の通りであった。
 [血液検査]WBC $3.9 \times 10^3/\mu\text{L}$ RBC $1.75 \times 10^6/\mu\text{L}$ Hb 6.2g/dL Ht 17.4% MCV 99.3fL MCH 35.3Pg MCHC 35.5% RDW 19.1 Ret 148‰ PLT $100 \times 10^3/\mu\text{L}$ [血液

像]Baso 3% Eosino 16% Myelo 6% Band 4% Seg 28% Lymph 25% Mono 18% 赤血球は大小不同であり、球状赤血球も見られた。[生化学]T-Bil 1.9mg/dL I-Bil 1.6mg/dL LD 246U/L [輸血検査]直接抗グロブリン試験(+)

【臨床経過】上記の検査結果より生化学の値にて I-Bil や LD の上昇により体内での溶血が考えられ、Ret や MCHC の上昇、直接抗グロブリン試験が陽性となったことから AIHA の合併が発覚。CLL は経過観察となっていたが、AIHA の合併により治療を開始。また、Hb 高度低下に対して輸血を実施。

【まとめ】CLL 経過観察中に発症した AIHA を経験した。CLL は自己免疫疾患を合併しやすいことが知られている。本症例では Hb 6.2g/dL と急激な低下が見られており、AIHA の Stage 分類に当てはめると Stage4 の重症にあたり、薬物療法および輸血が必要な症例であった。以上のことから AIHA の合併に気付く重要性を改めて感じた症例であった。

【連絡先】宏潤会 大同病院 臨床検査部
 052-611-6261(内線 7218)